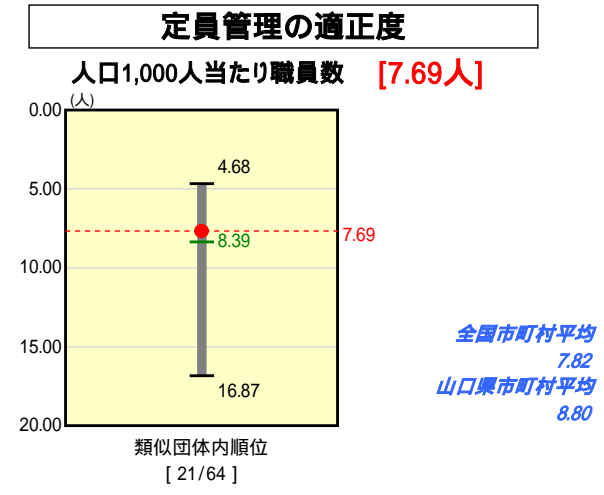
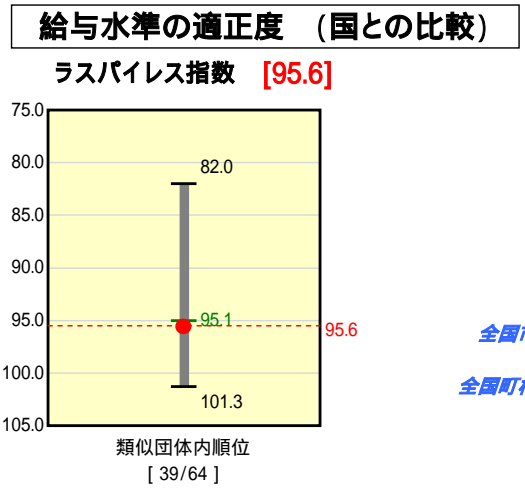
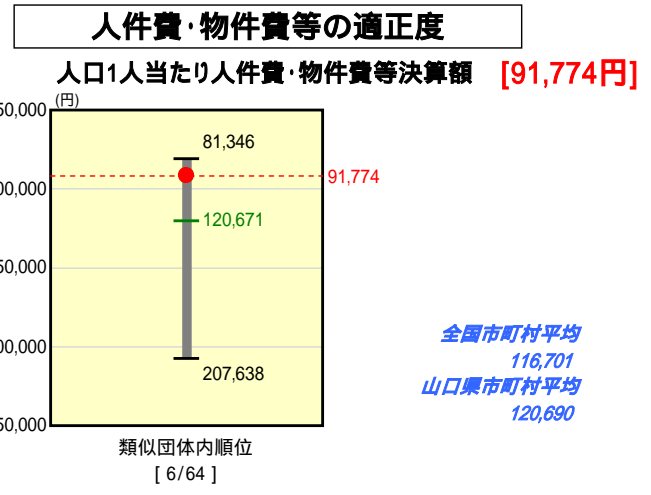
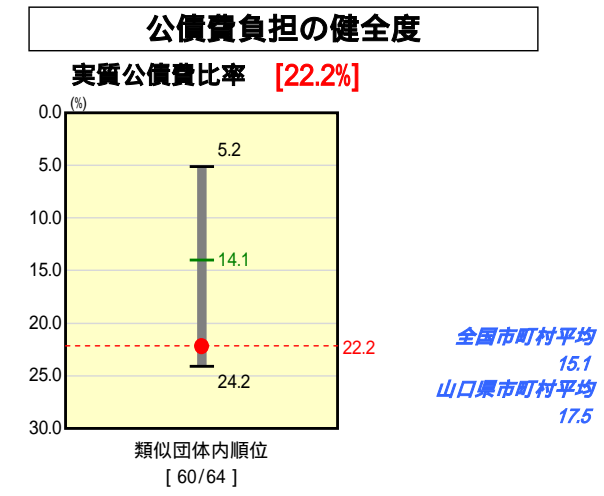
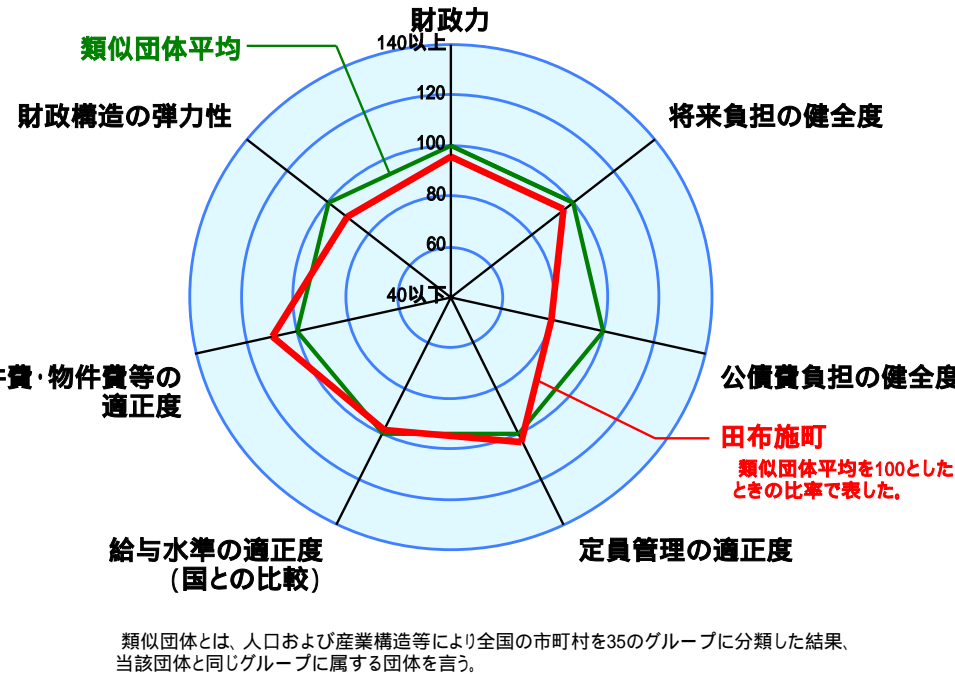
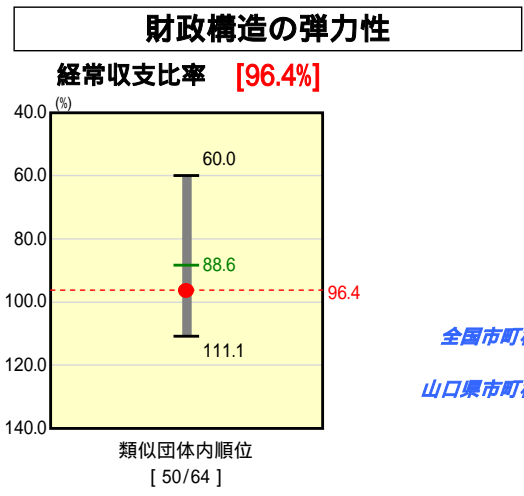
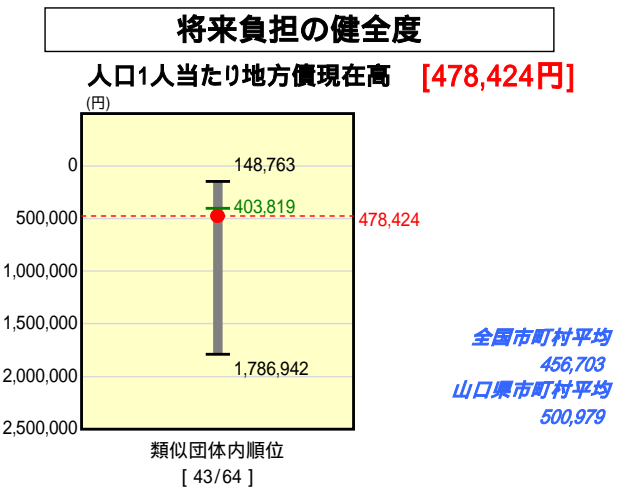
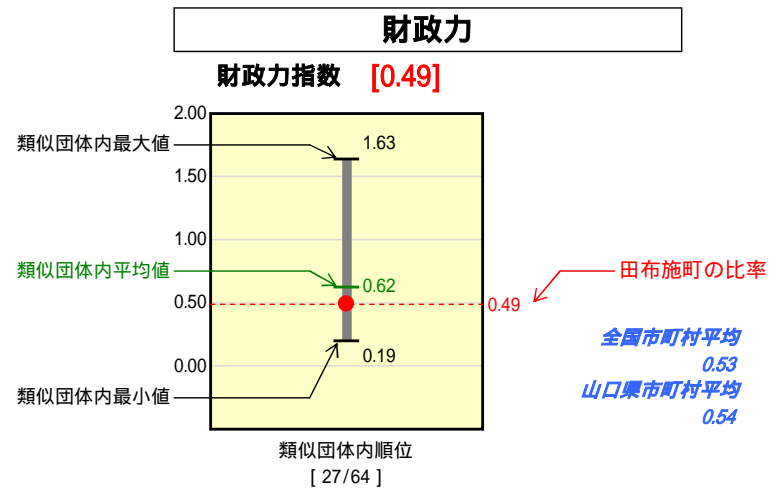


市町村財政比較分析表(平成18年度普通会計決算)

山口県 田布施町

人口	16,767人	(H19.3.31現在)
面積	50.35	km ²
歳入総額	5,072,219	千円
歳出総額	4,944,149	千円
実質収支	93,076	千円



人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

財政力指数: H18から収納対策を設けて滞納額の圧縮に努めるとともに、経常経費の削減努力等を継続しているところである。今後は新たな企業立地の可能性を模索する等、多方面から財政力の向上を図るための取り組みを行う必要がある。

経常収支比率: 類似団体平均を大きく上回っているとともに、昨年度から0.4ポイント悪化した。内訳で見ると特に扶助費と繰出金が高い傾向にある。繰出金のうち下水道事業については、公営企業の原則である独立採算を徹底するため、使用料の引き上げ、工事コストの縮減、事業の縮小等を検討する。

扶助費についても、受益と負担の整合の観点に立ち、随時、事業内容を見直ししていく必要があると考えている。

人口1人当たり人件費・物件費等決算額: 事務経費については、これまでも見直し・効率化を図ってきたが、平成17年10月に「田布施町緊急財政再生プラン」を策定・公表してからは、町長・職員給与のカットを始め、さらに踏み込んだ形で歳入・歳出両面から抜本的な見直しを進めているところである。

ラスパイレス指数: 類似団体平均よりも0.5ポイント高い。「田布施町緊急財政再生プラン」に基づき、平成18年度から管理職手当の50%カットをはじめ、職員給の抑制を図っている。さらに、退職者の不補充等により、平成18年度から平成22年までの5年間で職員数の15%程度の削減を目指して取り組んでいる。

人口1人当たり地方債現在高: 類似団体平均をやや上回っている状況にある。公営企業である上・下水道の起債残高が多額であり、その経営が非常に厳しいことを考えると、普通会計においても更に償還を進めていく必要がある。なお、平成19年度については、減債基金の取り崩しによる(借換債を発行しないで行う)公的資金の繰上償還を約2,200万円実施し、残高の縮減を図っているところである。

実質公債費比率: 18%を超えており、起債にあたって県の許可を要する団体となっている。昨年度よりも0.8ポイント上昇した。大きな要因は下水道事業に対する繰出金であり、「公債費負担適正化計画(H18策定済み)」と「下水道事業経営安定化計画」との整合を図りつつ、具体的に取り組む。

人口1,000人当たり職員数: 類似団体平均を下回っている。「田布施町緊急財政再生プラン」では、今後も人員削減を図っていくこととしているため、地域自主防災組織の設立(H19.3現在・1団体)や公共施設における指定管理者制度の導入(H19.3現在6箇所、H20からは新たに町スポーツセンターで実施)等、地域住民との協力・連携のもとに、一層の事務の効率化を進めているところである。